

Title	文学部『情報活用基礎』におけるプレゼンテーション 実習の試み
Author(s)	北道, 淳司
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2001, 2, p. 14-17
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/73126
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

文学部『情報活用基礎』におけるプレゼンテーション実習の試み

北海道 淳司 (サイバーメディアセンター 情報メディア教育研究部門)
(kitamichi@cmc.osaka-u.ac.jp)

1 はじめに

文学部の学生を対象とした情報活用基礎の授業では、一年生の第一セメスタにおいて主に情報リテラシの教育を行っている。本年度よりはじめて、プレゼンテーション実習を導入した。現在、実施している途中ではあるが、その経緯について報告させて頂く。

なお、文学部の情報活用基礎の授業は、文学部一年生 180 名 (さらに今年度は再履修の学生は 13 名を含む) に対し、3つの教室 (豊中教育実習棟第 1、第 2、第 3 教室) を利用して実施している。本稿では、特に断らない限り、著者が担当している第 2 教室 (学生 72 名、TA 2 名) における状況を述べる。

2 文学部情報活用基礎の概要

本授業では、一コマ 90 分の授業を 15 回行い、ログイン・ログアウト、かな漢字変換、エディタ、電子メール、電子ニュース、WWW、ワープロ、ドロー・ペイントツール、ホームページの作成、 \LaTeX による文書作成等の学習項目を習得する。

この授業では、教官が概要 (概念、計算機の操作方法など) を説明しデモを行い、それに対して引き続き学生は演習を行うという形態である。TA には、演習時に学生からの質問に対応してもらっている。

3 プレゼンテーション実習

本年度からは、 \LaTeX による文書作成の代わりに、サイバーメディアセンター情報教育システム (Linux システム) で利用可能な『Applix プレゼンテーション』を用いたプレゼンテーションのためのスライド作成および発表 (質疑応答も含む) の実習を行うことにした。

現在、15 回の講義のうち 12 回を終了、プレゼンテーション実習を行う 7 回のうち 5 回を終了したところである。

3.1 目的

情報活用基礎では、コンピュータを利用して、情報を収集し、それらを整理・分析し、他者に伝達・発信できるようになることを目的としている。特に他者への伝達・発信に関して、従来の文学部対象の情報活用基礎のカリキュラムでは、電子メール・ニュース、ホームページ、ワープロ・ \LaTeX による文書作成などが含まれているが、他者の前で自分の意見を発表する (話す、説得する、ディスカッションする) 内容は含まれていなかった。しかし、学生の将来においてグループミーティング等の場においてプレゼンテーションを行う機会は今後ますます多くなることが予想されることなどから、プレゼンテーション実習を試みることにした。

プレゼンテーション実習前に学習しているワープロ、ドロー、ペイントツール、WWW 上の検索エンジンを用いた情報検索を活用する総合演習的な課題として、有用であると考えたまた質疑応答などによるディスカッションの練習、他者の発表の評価を行うことなども、プレゼンテーション実習の目的に含まれる。

3.2 実施方法

プレゼンテーション実習の日程は以下の通りである。スライド作成に用いるツールは、『Applix プレゼンテーション』である。これのサブセットであるドローツールの『Applix グラフィックス』、ワープロ、か

な漢字変換などは習得済である。また、以下の授業では、ホームページ作成の説明・実習が並行して行われている。授業内容の末尾の数字は、90分の授業時間に対して実際にプレゼンテーション実習に要した時間の割合を示す。

第1回目 実習の概要の説明、テーマの提示 (20%)

第2回目 スライドの作成方法、プレゼンテーションの実行方法の説明 (70%)

第3回目 スライドの作成実習 (30%)

第4回目 スライドの作成実習、次回発表者の決定 (100%)

第5回目 3名発表、第6,7回発表者の決定 (100%)

第6回目予定 6名発表

第7回目予定 6名発表

第1回目に、プレゼンテーション実習の概要について筆者が Applix プレゼンテーションを用いて説明した。また、用意したテーマ(付録参照)を示し、それらの中から各学生にプレゼンテーションを行うテーマの希望を提出させた。

第2教室では、学生一人一人がテーマに対して調査を行い、スライドを作成することにした。ただし、発表は同じテーマを与えられた3、4人の中で選ばれた一人が全員の前で発表することにした。他の教室では、2~4名程度のグループでのスライド作成を行わせ、全グループの発表を行わせることを予定している。

一つのテーマに対し4人程度の学生を割り当て、第2回目から第4回目の授業および自習時間に、テーマに関するスライドと発表内容に関する資料を作成させた。資料は、スライドに掲載できないような、全体の概要、各スライドの詳細あるいは補足説明、参考資料、要した作業時間などをまとめたものである。

第4回目では、テーマ(1) OPAC からテーマ(4) 携帯電話/ PHS のサービスまで割り当てられた学生の間で、相互にスライドおよび資料を交換させ、互いに採点させた。それらの結果をもとに、同一テーマを与えられた学生のなかで最高点を獲得した学生に、第5回目の授業で発表させた。学生間での相互の採点においては、スライドを実際に発表させることが望ましいが、時間の関係上、印刷されたスライドと資料を交換しそれを各自読むことにより採点させた。

第5回目では、発表すべき学生が一人欠席し、3名の発表(発表約7分、質疑応答約5分)を行った。学生には教室の教官卓の端末にログインさせ、プレゼンテーションを行った。質疑応答では、聴講している学生にも質問を促したが、ほとんど教官あるいはTAが質問を行った。聴講する学生は、発表者毎にチェックシートに発表の採点を行い、感想をまとめ、教官に提出する。

9月には、第6、第7回目を予定しており、計12名の発表を行う予定である。

3.3 検討すべき項目

本年度から実施したプレゼンテーション実習については、試行錯誤で進めているのが現状であり、検討すべき項目は非常に多い。その中でいくつかを取り上げる。

テーマ テーマは、情報活用基礎に関連するテーマを教官が用意し、それらの中から選択させることにした。中には、自ら興味のあるテーマについてまとめたいという学生もいたが、学生間の評価による発表者の決定が困難になると考え、自由テーマは許可しなかった。

初めの4つのテーマは、(発表の時期が早いので)調査およびスライド作成が行いやすいように、ある程度具体的でまとめ易そうなものを選んだ。

グループ分け 他の教室ではグループ発表を行っているが、筆者の担当教室では個人個人での資料作成とした。これはグループ発表とすると、分担によっては、スライド作成をまったく行わないというような場合も考えられ、全員が、資料収集、スライド作成を経験することを目標とした。また、グループ作業の場合、グループ内での個人の負荷の違い、個人の評価の難しさ等の問題も考えられる。

第5回目の授業の後(相互評価により発表者を決定した後)での学生の感想からは、他人のスライド・資料と比較できたことに関しては概ね、良い経験であったことが伺われる。

4 まとめ

プレゼンテーション実習をアナウンスした当初の学生からの反応としては、『人前で発表することは絶対にはいである』という感想が多くあった。しかし、第5回目の授業の後の感想では、スライドのまとめ方、発表の仕方などに関して、多くの学生は他人のスライドおよび発表に興味を持っており、自分との比較について述べている学生も多かった。

実際学生が作成したスライドを図1に示す。発表した3名のスライドは、作成時間の少なさからテキストによる説明文が多かった。残りの発表では図形やグラフ等を利用したスライドを期待したい。

課題としては、第2教室では個人ごと発表であるので、約1/4の学生しか実際には発表できない。理想的には、全員が発表すること、何度か発表を行いスライドおよび発表方法をブラッシュアップできる機会を複数回与えられればよいが、時間および場所の関係で困難である。今後は、残りの12名の発表を行い、それらの経緯、収集したチェックシート等を解析し、グループ発表を行っている他教室との比較を行い、今後の授業の参考としたい。

今回のプレゼンテーション実習では、すでに昨年度から実施されている人間科学部対象の情報活用基礎の授業担当の先生方に多大な協力を頂いている。この場をお借りしてお礼を申し上げたい。

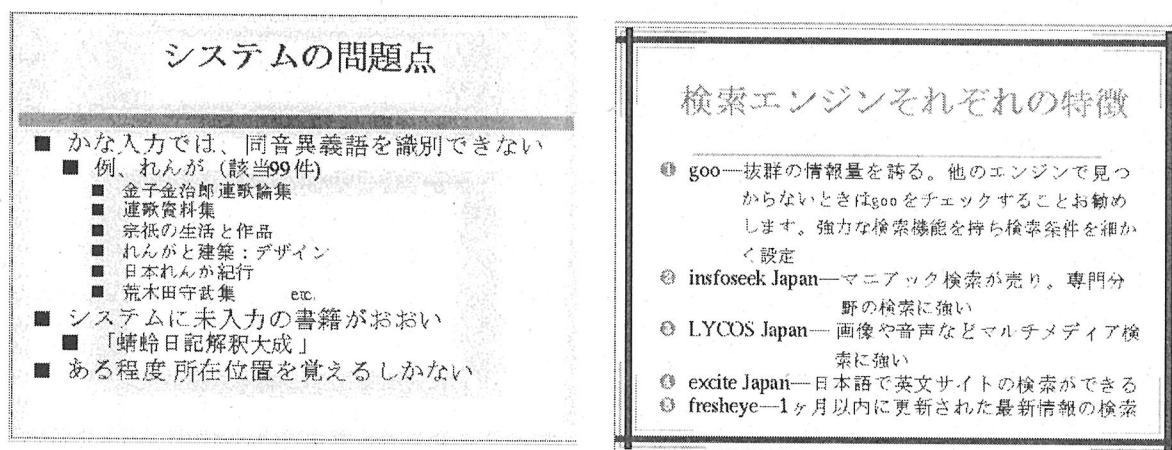


図1: テーマ1および2のスライドの一つ

付録 プレゼンテーション テーマ一覧

- (1) OPAC 大阪大学附属図書館のOPACは、どのようなサービスが提供されているか、主なサービスの利用方法を説明せよ
- (2) 検索エンジンの比較 情報教育システムのホームページのリンク集 <http://webserver/link.shtml> の検索エンジンが提供するサービスを比較する
- (3) 家庭とインターネット 例えば、家庭とインターネットを接続するにはどのような方式があつて、それぞれどのような特徴があるか
- (4) 携帯電話／PHSのサービス 例えば、現状の携帯電話／PHSにはどのようなサービスが提供されているか、また、今後どんなサービスを期待するかなど
- (5) インターネット時代の政治 政治(国会、政府、政党、裁判所)はどのようにインターネットを利用／活用しているか、いくつかの団体に着目して事例を調べる。また、将来、どのような利用が考えられるかなど
- (6) インターネット時代の行政 地方自治団体(都道府県、市町村)はどのようにインターネットを利用／活用しているか、いくつかの団体に着目して事例を調べる。また、将来、どのような利用が考えられるかなど
- (7) インターネット時代の学校 学校(大学、高校、中学など)はどのようにインターネットを授業、クラブ活動などに利用／活用しているかいくつかの学校に着目して事例を調べる。また、将来、どのような利用が考えられるかなど
- (8) インターネット時代の医療 医療はどのようにインターネットを利用／活用しているか事例を調べる。また、将来、どのような利用が考えられるかなど
- (9) インターネット時代の防災 防災システム(国、地方公共団体、ボランティアグループなど)はどのようにインターネットを利用／活用しているかいくつかの事例を調べる。また、将来、どのような利用が考えられるかなど
- (10) インターネット時代の福祉 福祉(地方公共団体、ボランティアグループ、企業など)はどのようにインターネットを利用／活用しているかいくつかの事例を調べる。また、将来、どのような利用が考えられるかなど

- (11) **インターネット時代の図書館、美術館、博物館** 図書館、美術館、博物館などの展示物を公開／維持保存している組織は、どのようにインターネットを利用／活用しているかいくつかの事例を調べる。また、将来、どのような利用が考えられるかなど
- (12) **IT時代の著作権問題** WWWを利用してたくさんのホームページが閲覧できるが、それらのコンテンツに関して著作権の問題が多く取り上げられている。実際の事件を取り上げて報告する
- (13) **ネット犯罪(サイバー犯罪)** インターネットを利用してたくさんのサービスを受けらが、それを悪用した犯罪も多発している。実際の事件を取り上げて報告する
- (14) **コンピュータウイルス** メールなどを悪用して、コンピュータウイルスが多く被害をもたらす事件が発生している。実際の事件を取り上げて報告する